

第2回 新県民体育館整備等基本計画検討会 次第

日時：令和7年9月3日（水）

13:30～16:00

場所：高知城歴史博物館 1階ホール

1 開会

2 議事

(1) ニーズ調査結果【報告】

- ・スポーツ需要
- ・イベント需要

(2) 施設全体構成案

- ・配置シミュレーション
- ・日影規制を満たす建設可能範囲（高さ）について
- ・新しい県民体育館の整備に伴う集約化・機能移転のイメージ
- ・県民体育館プールの再整備の考え方
- ・イベント興行利用と県民利用の比率

(3) 概算事業費【参考】

(4) 整備の基本的な考え方

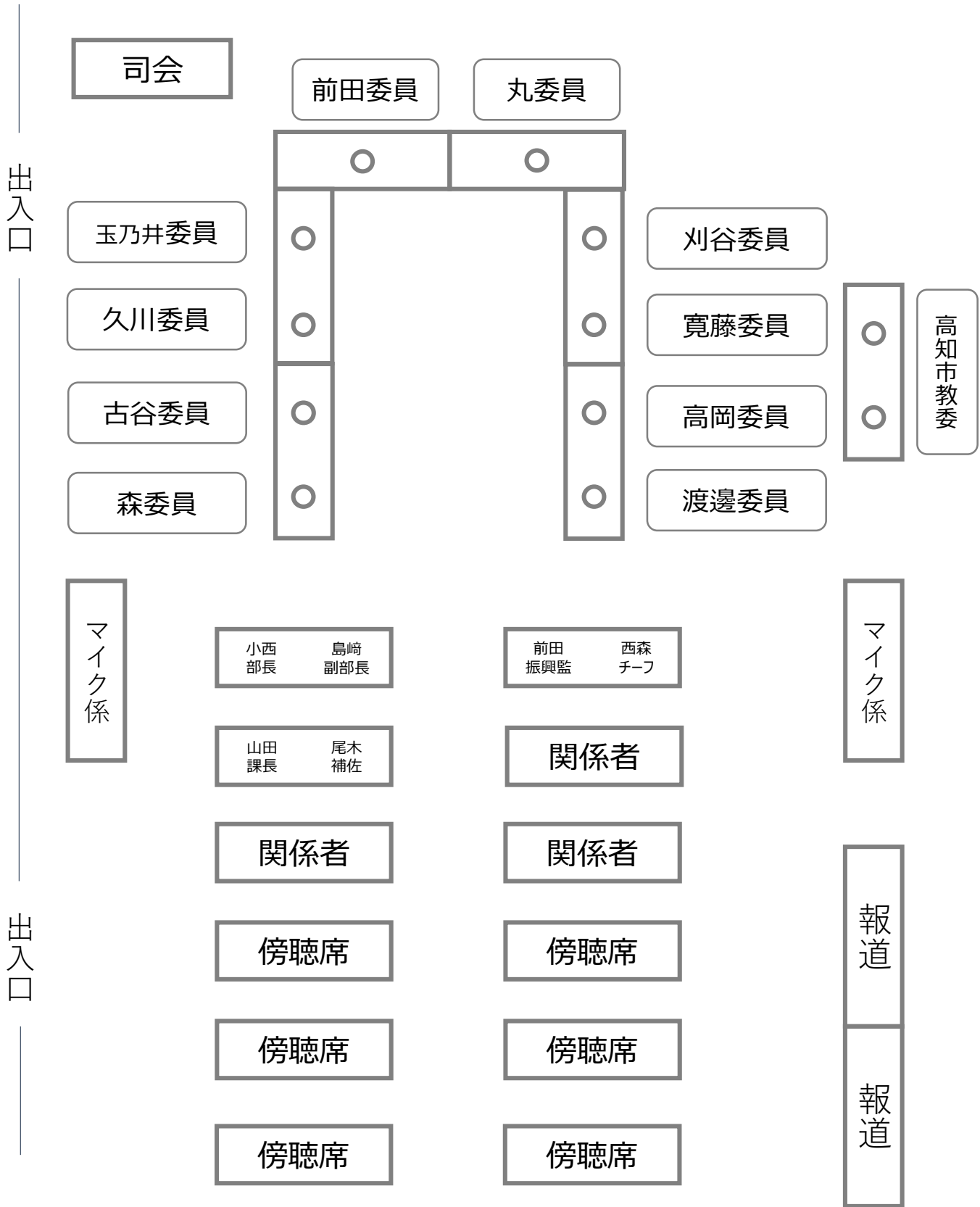
(5) 防災機能のあり方

(6) コスト削減対策

(7) 収益化の見通しと対応

3 閉会

第2回 新県民体育館整備等基本計画検討会
配席図



第2回 新県民体育館整備等基本計画検討会 委員一覧

(五十音順)

【 委 員 】					
NO.	氏名	所属・役職	分野	出欠	備考
1	刈谷 好孝	公益財団法人高知県スポーツ協会 専務理事	競技スポーツ	○	
2	寛藤 次男	高知県柔道協会 会長	武道	○	
3	坂本 淳	高知大学教育研究部自然科学系理工学部門 講師	防災	×	欠席
4	高岡 幸史	高知市文化観光スポーツ部 部長	自治体 (文化・観光・スポーツ)	○	
5	玉乃井 欣樹	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 理事	コンサート	○	
6	久川 俊秀	高知市文化プラザかるぼと 館長	文化	○	
7	古谷 純代	高知商工会議所 副会頭	商工	○	
8	前田 和範	高知工科大学経済・マネジメント学群 講師	スポーツマネジメント (アリーナ、Bリーグ)	○	
9	丸 朋子	大阪成蹊大学経営学部スポーツマネジメント学科 講師	スポーツビジネス・産業 (エンターテインメント)	○	
10	森 恒一郎	土佐経済同友会 観光推進委員会委員長	観光	○	
11	渡邊 英孝	高知県立障害者スポーツセンター 所長	障害者スポーツ	○	

【 アドバイザー 】					
NO.	氏名	所属・役職	分野	出欠	備考
1	原田 宗彦	学校法人浪商学園 理事・大阪体育大学学事顧問	スポーツマネジメント	×	欠席

【 オブザーバー 】					
NO.	氏名	所属・役職	分野	出欠	備考
1	竹内 清貴	高知市教育委員会事務局 教育次長	教育	○	
2	植田 浩二	高知市教育委員会事務局 教育次長	教育	○	

第2回 新県民体育館整備等 基本計画検討会

令和7年9月3日

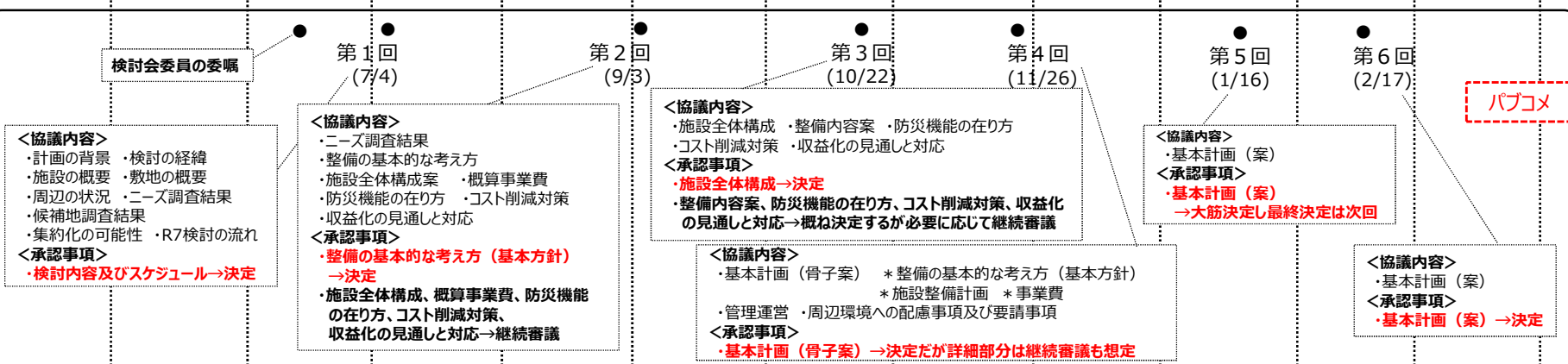
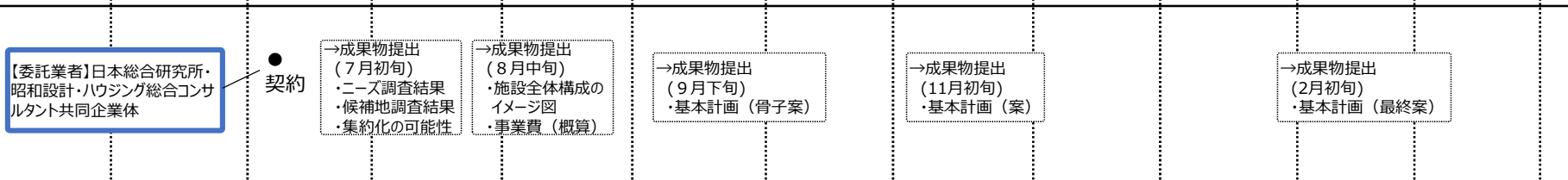


目次

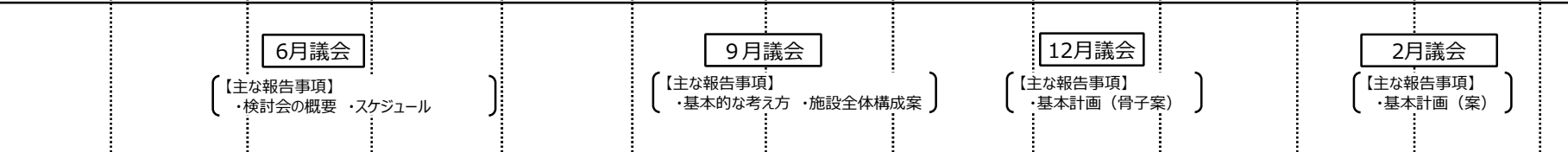
今年度のスケジュール	P2	(4)整備の基本的な考え方	P27
(1)ニーズ調査結果【報告】	P3	(5)防災機能のあり方	P29
・スポーツ需要	P4	(6)コスト削減対策	P31
・イベント需要	P9	(7)収益化の見通しと対応	P33
(2)施設全体構成案	P14		
・配置シミュレーション	P15		
・日影規制を満たす建設可能範囲 (高さ) について	P21		
・新しい県民体育館の整備に伴う 集約化・機能移転のイメージ	P22		
・県民体育館プールの再整備の 考え方	P23		
・イベント興行利用と県民利用の 比率	P24		
(3)概算事業費【参考】	P25		

「新県民体育館整備等基本計画検討会」の今年度のスケジュールについて

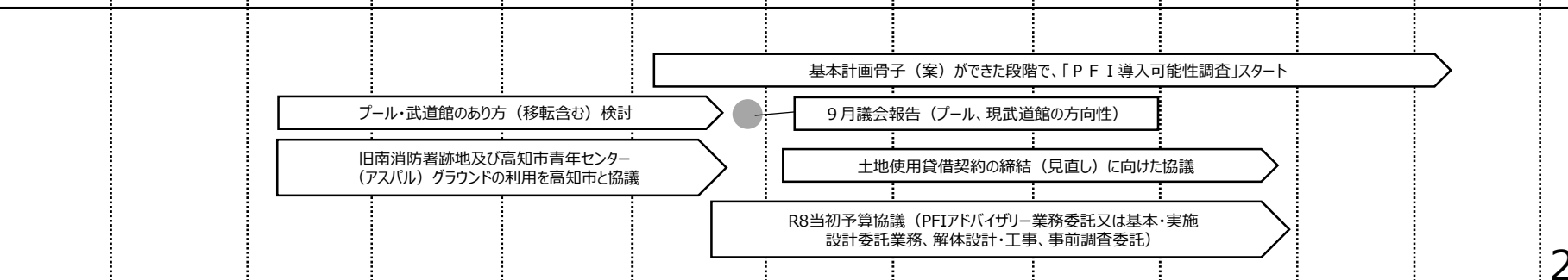
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

基本計画
検討会基本計画
策定委託
業務

議会



検討事項



第2回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事

議 事

- (1) ニーズ調査結果【報告】**
- (2) 施設全体構成案
- (3) 概算事業費【参考】
- (4) 整備の基本的な考え方
- (5) 防災機能のあり方
- (6) コスト削減対策
- (7) 収益化の見通しと対応

ニーズ調査結果（スポーツ需要）

ニーズ調査（スポーツ需要）

新しい県民体育館のスポーツ需要について、各競技の活動実態、新しい体育館への要望や利用意向などを把握するため、各競技団体へアンケート調査を実施

【対象】 屋内競技の競技団体 13団体

【期間】 令和7年7月14日～8月1日

【方法】 アンケート形式

調査項目	設問内容
属性	基本情報（団体名、実施種目、所属人数、年齢構成、直近5ヶ年における所属人数の推移）
協会主催・共催の活動の実態	- 競技活動の頻度（月〇回、平日・土日祝、午前・午後・夜間） - 競技活動の場所（県の公共施設、県以外の公共施設、学校等教育機関の施設、民間施設、その他） - 定期的に主催・共催で開催している最も規模の大きい大会やイベントの概要（大会名、利用者の属性、利用施設、利用面数、参加競技者数、参加団体数、観客数、自動車での来場者数又は駐車台数）
新県民体育館への要望	- 利用時における理想的または適切な競技スペース（必要面数）（例：バスケットボールコート〇面分 等） - 導入を希望する諸室（待合・交流スペース、カフェ等の飲食店・売店、更衣室、シャワー室、託児スペース、トレーニングルーム、フィットネススタジオ、ランニングスペース、用器具庫、その他） - 導入を希望する機能（空調設備、Wi-Fi環境、簡便な予約システム、駐車場・駐輪場の拡張、更衣室設備の充足、その他）
利用意向	新県民体育館が整備された場合の利用意向及び年間の利用想定（大会・イベント利用回数／練習利用回数）
その他、自由意見	- 現在活動に利用している県の公共施設についての意見（自由記述） - 上記の設問以外に、新県民体育館に対しての意見（自由記述）

ニーズ調査結果（スポーツ需要）

・アンケート内容から得た、**施設利用・運用**に関する示唆、施設整備の方向性は次のとおり。

項目

主なアンケート意見

施設利用・運用について

- ・ いずれの競技団体も、新県民体育館の利用意向を示した。
- ・ 新たに利用が期待できるイベントや大会として、プロチームによる公式戦や合宿の誘致、アマチュアの大会等が挙げられた。
- ・ 「使用料は、他の体育館とほぼ同額として、各利用者（主催者）が利用しやすくなるよう、施設維持費確保のために、駐車場や自販機の金額を一般的な料金より、やや高めに設定すると良い。利用者の皆さんに使用料を少しずつ負担していただき、借り手がなくならないように、配慮する。」
- ・ 「武道種目、特に柔道などの畳（あるいはマット）を必要とする競技種目について、高知県立武道館以外に利用されている公共施設がない。適切な利用料金の設定と、県民に対するスポーツおよび武道振興の課題対応に取り組んで頂きたい。」
- ・ 「主要な大会の優先決定（1年前程度決定、四国大会等案内が出しやすい）」

示 唆

- ・ 新県民体育館が整備されることで、各競技で**今まで開催できなかった行事を開催できる可能性**が見込める。
- ・ **競技団体の利用を妨げない料金設定としつつ、駐車場や物品の売上によって施設の維持費を賄う**といった工夫が求められる。
- ・ 特に武道団体は、活動の場が限られるため、新県民体育館のあり方が県内の競技の活動や振興に与える影響に留意する必要がある。
- ・ 主要大会については、**年単位で余裕を持った日程確保が可能な仕組み**を設けることがよい。

施設整備の方向性

- ・ **5,000人収容の施設にすること**で、これまで機会損失になっていたイベント・大会を開催できる可能性がある。

ニーズ調査結果（スポーツ需要）

・アンケート内容から得た、**導入する諸室や設備**に関する示唆、施設整備の方向性は次のとおり。

項目

主なアンケート意見

導入する諸室・設備

- ・ 導入を希望する諸室機能としては、観戦・待合スペースや飲食店・売店、飲食スペースなど、**主に観覧者をターゲットとしたもの**が要望された。
- ・ 導入を希望する設備機能としては、気流の影響が小さく競技エリアを重点的に冷暖房する**輻射空調設備**が最も多い回答を集めた。次いで、**駐車場・駐輪場、Wi-Fi環境、映像装置（大型ビジョン）**が要望された。
- ・ 「十分な駐車スペースとフロア面積、控室や会議室などの部屋数なども主催競技のレギュレーションに沿ったものになければ新規イベント候補地にもならない。」
- ・ 「センターコートの作成が容易にできるよう各ポイントに板目と同色のマスキラインを入れておく」
- ・ 「各競技の器具の出し入れがスムーズにできるように高さ・幅をワイドにしておく」

示 唆

- ・ スポーツを「する」立場のみならず、「**みる」「ささえる」立場を対象とした機能が必要**と認識されている。
- ・ 気候変動の影響に対応することや、最先端のテクノロジーに対応した施設であるなど、**時代のニーズに沿うこと**が要望されている。
- ・ アリーナ以外の部分でも、**各団体が主催する競技のレギュレーションに沿った設えである必要がある**ため、各団体との密な連携が必要である。
- ・ 各競技の実施に即するため、**床面や保管庫等の設えを汎用性のあるものとする**必要がある。

施設整備の方向性

- ・ 必要な競技スペースは確保しつつ、観戦・待合スペースや飲食スペース等の機能を導入することで、**応援環境を充実化されること**が望ましい。
- ・ 多用な競技に対応するため、**諸室をマルチスペース化すること**が望ましい。
- ・ メインアリーナの床仕様について、**利用用途に応じて床仕様（車両の耐荷重に対応した土間コンクリートや人力で設営撤去が可能な木製床パネル等）が変更できるように対応**しておくことが望ましい。

ニーズ調査結果（スポーツ需要）

- ・アンケート内容から得た、**駐車場**に関する示唆、施設整備の方向性は次のとおり。

項目

主なアンケート意見

駐車場について

- ・大会・イベントにあたって必要な駐車台数は、9団体は100台以上が必要と回答しており、100台弱の駐車台数では駐車需要を充足できないことが懸念される。
- ・「現在、県内のアリーナで特に問題となるのが駐車場スペースで、近隣商業施設や学校等へ無断で駐車される場合が多く、主催団体へ苦情がたくさん寄せられる。」
- ・「県立武道館の利便性の向上のため常設駐車場の確保をお願いしたい」
- ・「駐車場が併設された公共施設が少ない。春野総合運動公園を除き、市内の公共施設については、近隣のコインパーキングに頼っているところが多い印象を受ける。そのため、大会運営にあたって来賓者の駐車スペースを確保するだけで役員は駐車できないことも多々ある。」
- ・「今後も本県の自家用車の依存は続いていくと考えられるので、長期的な視点で利用者用の駐車場を確保しておくことが極めて重要。施設の整備に併せて確保しておかないと後で整備するのは困難であり、利便性は極端に低下する。」

示 唆

- ・現在の案で想定されている、**100台弱の駐車台数では、駐車需要を充足できないおそれがある。**
- ・特に大会などを実施する際に、駐車台数が著しく不足しており、**周辺施設等への無断駐車による苦情問題が発生している現状があるため、徒歩圏内に臨時駐車場を設けるなど対策を検討**する必要がある。
- ・施設の利用予約と同時に駐車場の枠も予約する制度など、**混乱を生じさせない仕組みを検討することがよい。**

施設整備の方向性

- ・ 日常利用や大会時の関係者用の駐車台数は最低限確保することが望ましい。

アンケートで得られた意見のサマリー | 意見まとめ

質問項目		意見まとめ
活動状況	活動の頻度、タイミング	10団体は月に1度以上活動を実施しており、うち6団体は週に1度以上の活動を実施していた。 活動日は土日祝日が中心で、時間帯を定めず活動している団体が主流であった。
	活動場所	全ての団体が、県立の公共施設での活動が最も多いと回答している。そのうち約8割は県立の公共施設、約2割は県立以外の公共施設での活動が最も多いと回答しており、学校教育機関の施設や民間施設を主な活動場所としている団体は無かった。
	活動に必要な駐車台数	必要な駐車場台数について、6団体は200台以上と回答し、最も必要数が多い回答は400台であった。
大会・イベントの開催	最も規模の大きいイベントについて (会場、参加者数等)	- 各団体で最も規模の大きい大会やイベントは全て、公共施設を会場とするものであった。 - バレーボール、バスケットボールをはじめとする団体球技では、比較的広いコートやスペースが必要とされ、回答されたもののうち最大であったものは、1,280㎡であった。 - 参加者数について、回答されたもののうち最多であったものは、競技者が1,000人、観覧車が2,000人であった。
	必要となる駐車台数	- 必要な駐車台数は、普通車が最大で1,000台、大型バスが最大で20台であった。 9団体について、100台以上が必要と回答しており、100台弱の駐車台数では駐車需要を充足できないことが懸念される。
	競技用具の保管	13団体中8団体が用具の保管を希望した。 - 各競技に必要な大型備品（ゴール、台など）のほか、多くの個数を数える個人競技者の装備（剣道道具、マットなど）が、実施場所で保管されている。
新県民体育館への要望	導入を希望する諸室	- 導入を希望する諸室機能としては、観戦・待合スペースや飲食店・売店など、主に観覧者をターゲットとしたものが要望された。 - 自由回答では、選手や講師、来賓の控室や、選手招集スペース、医務スペース等が要望された。
	導入を希望する機能	導入を希望する設備機能としては、気流の影響が少なく、競技エリアを重点的に冷暖房できる輻射空調設備が、最も多くの回答を集めた。次いで、駐車場・駐輪場、Wi-Fi設備、映像装置などの要望も多数寄せられた。
	利用意向	- いずれの競技団体も、新県民体育館の利用意向を示した。 - 大会・イベントと練習利用を合計して、年間100日以上の利用を想定する団体が5団体あった。
	新たに利用が期待できそうなイベントや大会	- 新たに利用が期待できるイベントや大会として、プロチームによる公式戦や合宿の誘致、アマチュアの大会等が挙げられた。 - 駐車場や競技フロア面積が不足していたため、既存の施設では行えなかったイベントや大会の開催についても期待が寄せられている。

ニーズ調査結果（イベント需要）

ニーズ調査（イベント需要）

新しい県民体育館のイベント需要について、コンサート興行やMICE利用等の実態や業界の動向、利用条件や利用意向などを把握するため、各業界団体へヒアリング調査を実施

【対象】 スポーツ関係団体、経済・観光団体、プロモーターなど11団体

【期間】 令和7年7月10日～8月19日

【方法】 ヒアリング形式

調査項目	設問内容
業界の動向	・ 5,000人収容の国内施設におけるコンサート興行やMICE利用等のイベント需要状況 ・ 機材の輸送コストが比較的高くなる立地にある施設において、設営撤去の負担軽減になる設備を備え付けておくことの需要 ・ 一般的に設営撤去時に搬出入する大型トラックの車両総重量と台数（駐車台数）
活動の実態	・ 高知県内のイベントの実施状況（イベント名、利用者の属性、利用施設、参加者数）
利用条件	・ 利用時における理想的または適切なスペース（メインアリーナのフロア面積等） ・ 利用に必要な設備や諸室（Wi-Fi環境、車両の待避スペース、控え室、その他） ・ 県外からの誘客促進又は需要を獲得するための条件 ・ 施設運営体制における条件（予約時期・利用調整等）
利用意向	・ 新県民体育館が整備された場合の利用意向及び年間の利用想定（イベント利用回数）。 ・ 5,000人収容の施設ができた場合、利用が期待できそうなイベントや大会（将来的な期待値）。
その他、自由意見	・ 現在利用している県の公共施設（ふくし交流プラザ・県民文化ホール等）についての意見（自由記述） ・ 上記の設問以外に、新県民体育館に対しての意見（自由記述）

ニーズ調査結果（イベント需要）

- ・ 協会等及び経済・観光団体、プロモーター、スポーツ団体の合計10団体に対して、ヒアリング調査を実施。
- ・ ヒアリング内容から得た、新県民体育館の**利用意向**に関する示唆、施設整備の方向性は次のとおり。

項目

主なヒアリング意見

利用意向

示 唆

施設整備の方向性

- ・ 学校体育の延長で作られている施設が多いため、「見せる」要素がなく、誘致に向けたアピール力に欠ける。コンサート等も香川県や愛媛県では開催されるのに対し、高知県では開催されないという状況が常態化している。
- ・ 大人数を動員するイベントの際は、十分な収容力を誇る会場がない。そのため、5,000人規模の新県民体育館が完成すれば、よさこい関係のイベントを拡充させ、新しい開催箇所として利用することも考えられる。
- ・ BリーグやVリーグの公式戦を一定数誘致したい。現実的には、プレシーズンのキャンプを行うスポーツチームの誘致や、サッカーチームが取り組むスポーツを通じた地元住民との交流イベントを開催したい。
- ・ 中古車の販売会や企業イベントの引き合いはあるため、新県民体育館では開催を検討したい。
- ・ 地酒の試飲会や、鮎を食するイベントが高知市内で開催されているため、可能性は感じられる。
- ・ 地元大学の入学式や学園祭等に利用される需要はあるのではないかと。また、とさでん交通の利用促進にもつながることを期待している。
- ・ マイナーな地域での公演にも積極的なアーティストもいる。プロモーターからアーティスト側にアプローチすることで、誘致できるよう働きかける余地はある規模である。
- ・ 学校のダンス部や地域のダンススクールが、公演や発表会の舞台として活用することは考えられる。
- ・ 新たに5,000人規模の施設ができることで既存のイベント等を拡充される意向や誘致活動を拡大させていく意向があることから、イベント興行利用を増やしていくために、**施設運営と合わせて誘致活動を業務化していく工夫が必要**となる。
- ・ 多用なジャンルの利用意向が見込まれることから、**多目的に対応した施設整備**を行う必要がある。
- ・ メインアリーナの床仕様について、**利用用途に応じて床仕様（車両の耐荷重に対応した土間コンクリートや人力で設営撤去が可能な木製床パネル等）が変更できるように対応**しておくことが望ましい。

ニーズ調査結果（イベント需要）

- ヒアリング内容から得た、新県民体育館の**利用条件**に関する示唆、施設整備の方向性は次のとおり。

項目

主なヒアリング意見

利用条件

- 車を寄せられることに加えて荷捌きや搬入ができる設えになっていることが必要である。
- コンサート開催に特化するうえでは、見切り席を限りなく削減できるU字型の形状は魅力的である。
- 照明・音響環境が整っている施設は高知県内にないため、公演の開催場所の候補から外れてしまい機会損失が発生している。
- 市街地を走る路面電車（とさでん交通）は、大切な文化である。体育館と宿泊施設等を結ぶ路面電車に注目したパッケージを販売するなど、企画できるとよい。
- 施設のアピールポイントがあると営業活動も展開しやすく誘致しやすい。
- 常設の飲食店の出店は厳しいが、キッチンカーや仮設店舗、仮設の物販施設等を設置できる場所があれば、各種行事の際の消費喚起や域内経済の活性化につながる。
- 駐車場面積が非常に狭いため、今後大規模イベントを誘致する際は混乱が生じる懸念がある。
- 県民体育館がイベント利用に供するため県民のスポーツ利用に使用できなくなると、既存の大会を継続的に回すことが厳しくなる。

示 唆

- 設営撤去を考慮し、**搬出入スペースが十分に確保**されていることが、施設選定において重要である。
- より多くの観客席数があること**がイベント興行の収益において重要である。
- まちづくりと連携したサービス**提供（例示：宿泊付きの観戦チケット等）を出していく必要がある。
- 各諸室で**優先すべき利用用途を決めていく**必要がある。

施設整備の方向性

- メインアリーナの出入口は、設営撤去時に**大型車両の乗り入れを想定した搬出入口を設ける**ことが望ましい。
- イベント興行時において、チケット収入を確保するため、**見切り席が限りなく最小限となる客席形状**が望ましい。
- 利用用途に応じて、**フレキシブルに利用できる屋外のオープンスペースの確保**が必要である。

ヒアリングで得られた意見のサマリー | 意見まとめ (1/2)

質問項目	意見まとめ
業界の動向	コンサート興行やMICE利用等のイベント需要状況 ・新県民体育館は中心市街地からやや離れているものの、立地・アクセス性に対する評価は悪くない。ただし、駐車場のキャパシティが小さいため、現状以上の駐車台数をイベント誘致とセットで対策を講じることが望ましい。 ・よさこい祭りは屋外開催が主流だが、新県民体育館を新たな開催場所とすることで、よさこい祭りの全国大会や前夜祭・後夜祭等よさこい関係のイベント拡充が期待できる。 ・さらに、イベントと絡めた収益性という観点では、イベント前後で飲食等を楽しみ、滞在時間と消費を促すようなコンテンツがあるかどうかも重要である。 ・一方で、コンサート興行は近畿地方からのアクセス性が香川県や徳島県に比べて高知県は劣ることから開催実績が少ない。 ・四国地方において、あなぶきアリーナと比較すると優先順位が劣ることは事実であるが、地元出身のアーティストや全県ツアー等を企画するアーティストからのニーズは一定程度考えられる。 ・10,000人を収容できるあなぶきアリーナが最優先となったうえで、チケット販売の目途や日程確保の都合で使い分けることになる。
	設営撤去の負担軽減になる設備需要 ・現状、設備機器の準備から撤収作業まで自前に対応している。現状、搬入口の狭さが最大のネックである。 ・設営撤去がしやすいということは、つまり、使いやすい施設として設営側/アーティスト側の高評価を受けるとともに、コンサート会場としてファーストチョイスされる施設にもなり得るため、リピート利用、稼働率の向上にもつながる可能性があると考えられる。
	大型トラックの車両総重量と台数（駐車台数） ・特に設備関連では、昨今吊り物の演出物が大型化しているため、搬入経路が狭いがゆえにイベントやコンサート興行の誘致を断念せざるを得ないことになり、機会損失にもつながってしまう。
活動実態	県内のイベント実施状況 ・MICE関連のほか、大学や病院が中心となった大規模大会の開催実績が多くある。 ・このような大規模大会の利用施設は、高知市文化プラザかろーと、高知県立県民文化ホール、高知ちばさんセンターが主流である。 ・過去には、Bリーグの試合やeスポーツ大会の誘致を試みていたが、収容人数を満たす会場確保や会場までのアクセス面が支障となるなどハードルが高く、誘致は容易ではないとされる。
利用条件	利用時に求められるスペース ・意見は限られたが、バスケットボールコート3面、バレーボールコート4面相当の面積が必要であるとされる。 ・見切り席を限りなく削減できるU字型の形状は魅力的である。 ・仮設店舗やキッチンカーの乗り入れが可能なフレキシブルな空間を設えることがよい。
	利用時に必要な設備・諸室 ・導入を希望する設備や諸室は以下が挙げられた。興行利用も見据えた場合は、「観る側」と「使う側」の双方の使いやすさに配慮したハード整備が望ましい。 ✓託児室、キッズスペース ✓ジム、ダンス練習ができる鏡付きスペース ✓自由に使える娯楽スペースや多目的スペース
	誘客促進・需要獲得の条件 ・ビジネス交流の場として、需要の事業性は肯定と否定の意見が入り混じる。 ・新県民体育館への導入は消極的であるものの、貸館ビジネスへのインパクトは大きいと、このようなサービスを提供していく可能性や必要性は確認された。 ・プロスポーツチームの本拠地であることは、一定の利用日数と収益が見込めるため、積極的に受け入れていくことのメリットはある。 ・上記のように、MICE利用やコンサート利用もバランス良く織り交ぜながら、あらゆる切り口で誘客を図りつつ、平日と休日の稼働バランスを整えていくことは、長期かつ安定的な施設の稼働率向上のためには必要となる。
	施設運営体制の条件 ・現状、興行利用よりも県民利用/スポーツ利用で稼働は埋まっている。 ・大会等の専用利用を優先的に予約確保している施設が多いため、コンサート興行を考える場合には連続した公演日の設定ができず、公演を断念する機会損失が発生してしまう。 ・また、MICEやコンサート利用のための会場予約は、遅くとも1年前から動き出すことが多いと、現状の予約方法に適合していない。 ・このように、仮にコンサート利用を優先する場合には、主催側が使いたい時に使えるような柔軟な受入れ環境（予約時期・利用調整）を構築することが求められる。

ヒアリングで得られた意見のサマリー | 意見まとめ (2/2)

質問項目	意見まとめ
利用意向 新県民体育館が整備された場合の利用意向・年間利用想定	・新県民体育館の整備による新たな施設需要がうかがえる。 ・特にスポーツ利用が盛んである県スポーツ施設の利用実態を鑑みると、新県民体育館がプロスポーツチームの本拠地となることで、一定の利用日数と収益が見込めるため、積極的に受け入れていくことのメリットはある。 ・現在、興行利用と県民利用/スポーツ利用のニーズ調査を行っているが、いずれの利用用途に関わらず施設本来のビジョンが曖昧になってしまうと、利用用途が曖昧になる。これにより盛り込むコンテンツが的外れになってしまい、結果的に施設の使いにくさにつながってしまう。そのため、ニーズ調査を踏まえたうえで、施設のビジョンを明確に設定する必要がある。
利用意向 5,000人収容の施設ができた場合、利用が期待できそうなイベント・大会	・過去に開催を断念していたイベントや大会が複数あったが、新県民体育館が整備されることで、会場の選択肢が増えるため、イベントや大会需要が伸びることに伴い、これまでの機会損失は減るものとされる。 ・県外からの誘客イベントのほか、県内向けイベントのアイデアも複数挙げられた。 ・アイデアの中には収益性の低いイベントも含まれるため、収益性向上のためには、新県民体育館単体で完結せず、周辺の集客施設や公共交通機関との連携も含めたエリア全体のバリューアップを図るという視点で事業を設計することが必要である。 ・プロモーターからアーティスト側にアプローチすることで、誘致できるよう働きかける余地はある規模である。ただし、拠点とするスポーツチームが確保できなければ、厳しい収支となるだろう。 ・コンサートや芝居、ミュージカルについては、県民文化ホールを用いているが、5,000人収容の施設ができた場合、それを前提とした営業を仕込んでいく。
自由意見 その他 現在利用している県の公共施設	・春野総合運動公園体育館と県民体育館とで、競技により利用用途が分かれている。 ・今後、他施設との差別化や稼働率の向上を目指す場合には、「観る側」と「使う側」の双方の使いやすさに配慮した整備をすることで、興行利用あるいはスポーツ利用の会場として、ファーストチョイスされる施設となることが望ましい。
自由意見 その他 新県民体育館に対しての意見	・団体/事業者側では対応できない駐車場や道路、電車や路線バス等の交通インフラの改善・整備は、周辺の交通状況や当該エリアまでのアクセス方法や需要を鑑みて、予め行政側で実施いただくことが望ましい。

第2回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事

議 事

- (1) ニーズ調査結果【報告】
- (2) 施設全体構成案**
- (3) 概算事業費【参考】
- (4) 整備の基本的な考え方
- (5) 防災機能のあり方
- (6) コスト削減対策
- (7) 収益化の見通しと対応

新しい県民体育館の配置シミュレーション

目的

現有地における施設集約の可否と、隣接地（旧南消防署跡地及び高知市青年センター（アスパルこうち）グラウンド）を含めた敷地における施設集約の可能性を検討

各施設の規模想定

【メインアリーナ】

・観客席5,000席 ・床面積9,900㎡
（参考：OPEN HOUSE ARENA OTA 太田市総合体育館）

【サブアリーナ】

次の2パターンを検討 床面積：①4,900㎡、②1,050㎡

① **バスケットコート2面＋観客席1,000席**

⇒サブアリーナのみで四国大会規模の競技大会を開催

② **バスケットコート1面のみ**

⇒メインアリーナで四国大会規模の競技大会を開催

【武道館】

現況の武道館の試合場の規模を想定（観客席：300～400席）

4面の場合：2,100㎡ **3面**の場合：1,650㎡

【プール】

現況プール（25m×8コース）、床面積：1,050㎡

【駐車場】 現況（82台）以上

対象施設

メインアリーナ、サブアリーナ、武道館（試合場）、プール、駐車場、憩いのスペース

シミュレーションにおける考え方

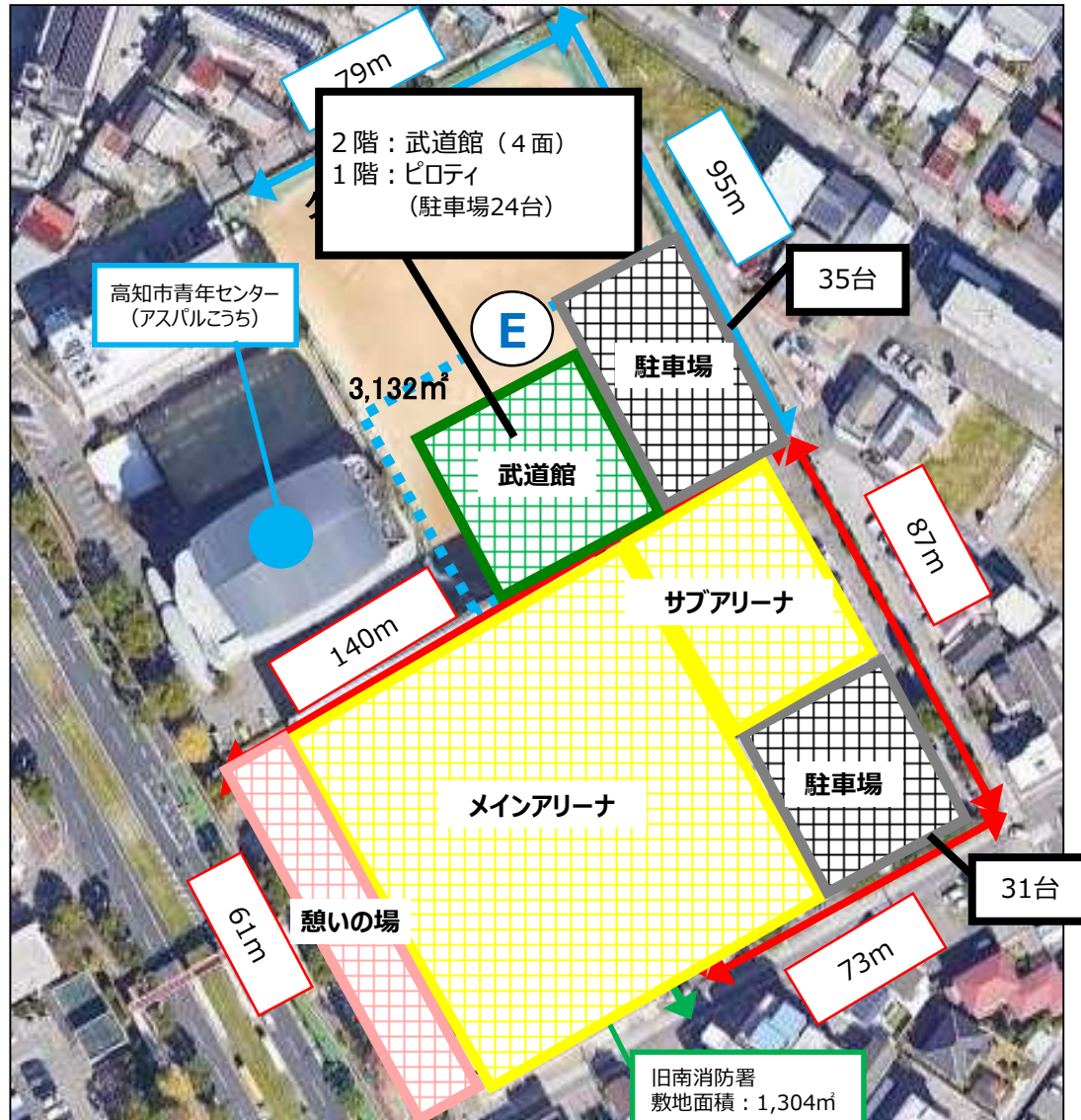
- 敷地面積は①**現有地のみ**、②**現有地＋旧南消防署跡地**、③**現有地＋旧南消防署跡地＋アスパルグラウンド**の3つの想定で検討
- メインアリーナとサブアリーナを必須の施設とし、武道館は試合場（4面又は3面）を想定
- プールは日常使いが主な用途であるため、優先順位は**武道館＞プール**とする

検討結果

- 計**4パターン**のシミュレーションを比較検討
- **現有地のみ**の敷地では、新しい県民体育館に必要な機能・規模を満たす**配置は困難**
⇒ **隣接地を含めた敷地で、配置候補を選定**

案① メインアリーナ+サブアリーナ（バスケット1面）+武道館（4面正方形）

■県民体育館



敷地面積
 現有地 (10,714㎡) +
 旧南消防署跡地 (1,304㎡) +
 アスパルグラウンド (半分程度) (3,132㎡)
合計 15,150㎡

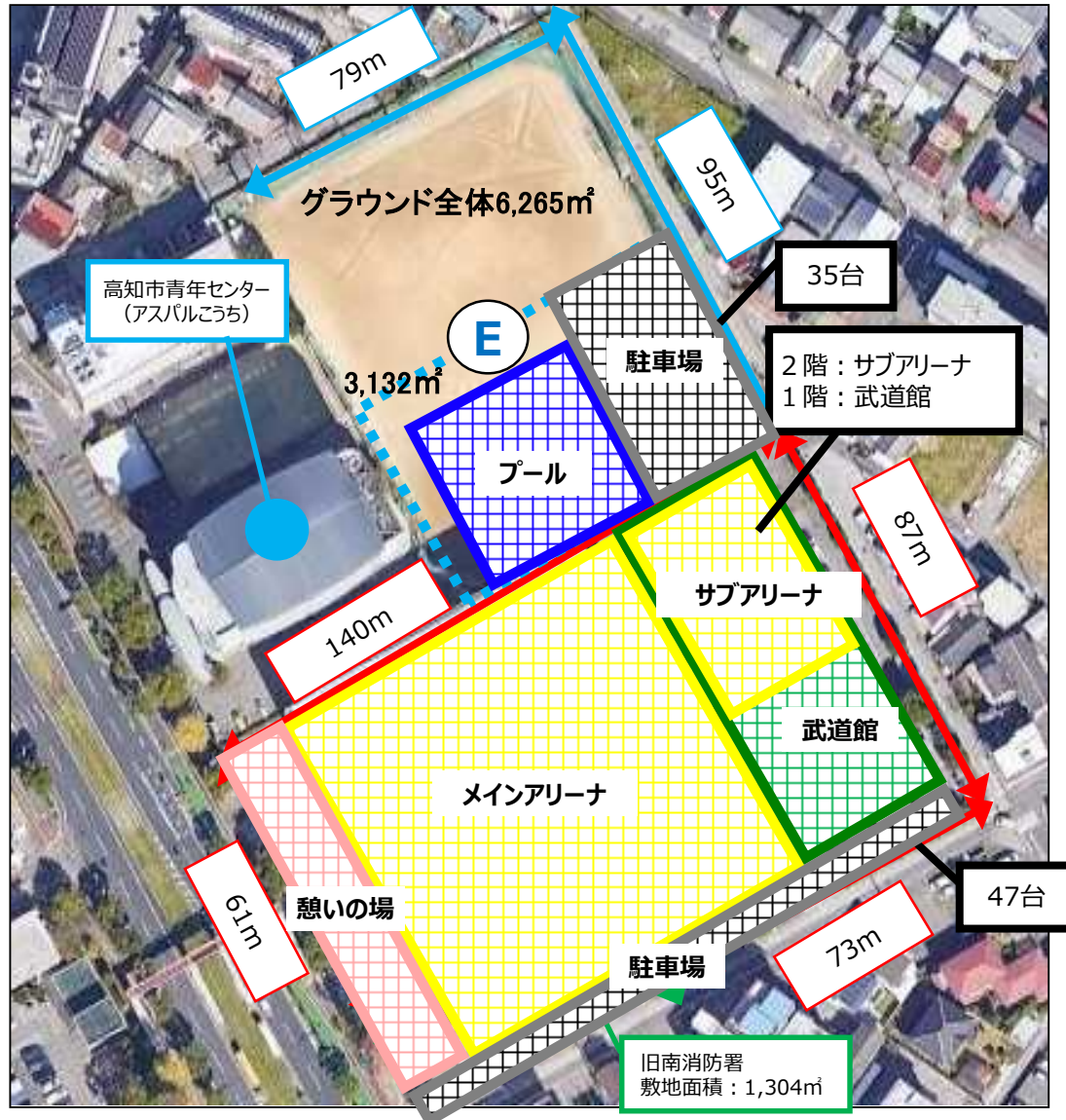
施設の概要
 【メインアリーナ】観客席5,000席
 【サブアリーナ】
 バスケット**1面**
 【武道館】4面正方形
 【プール】なし (プールは別途検討)
 【駐車場】90台 (31台+35台+24台)
 【憩いのスペース】正面に配置

ポイント

- サブアリーナはバスケット1面で観客席は確保できず、競技大会はメインアリーナで開催する必要
 ⇒これまでの県民体育館の使用と同様となる可能性が高い
- 武道館は現況と同じ囲み型で配置 (4面)
- 駐車場の数は現況 (82台) よりもやや多くなる

案② メインアリーナ+サブアリーナ（バスケット1面）+武道館（4面横並）+プール

■県民体育館



敷地面積

現有地（10,714㎡）＋
旧南消防署跡地（1,304㎡）＋
アスパルグラウンド（半分程度）（3,132㎡）
合計 15,150㎡

施設の概要

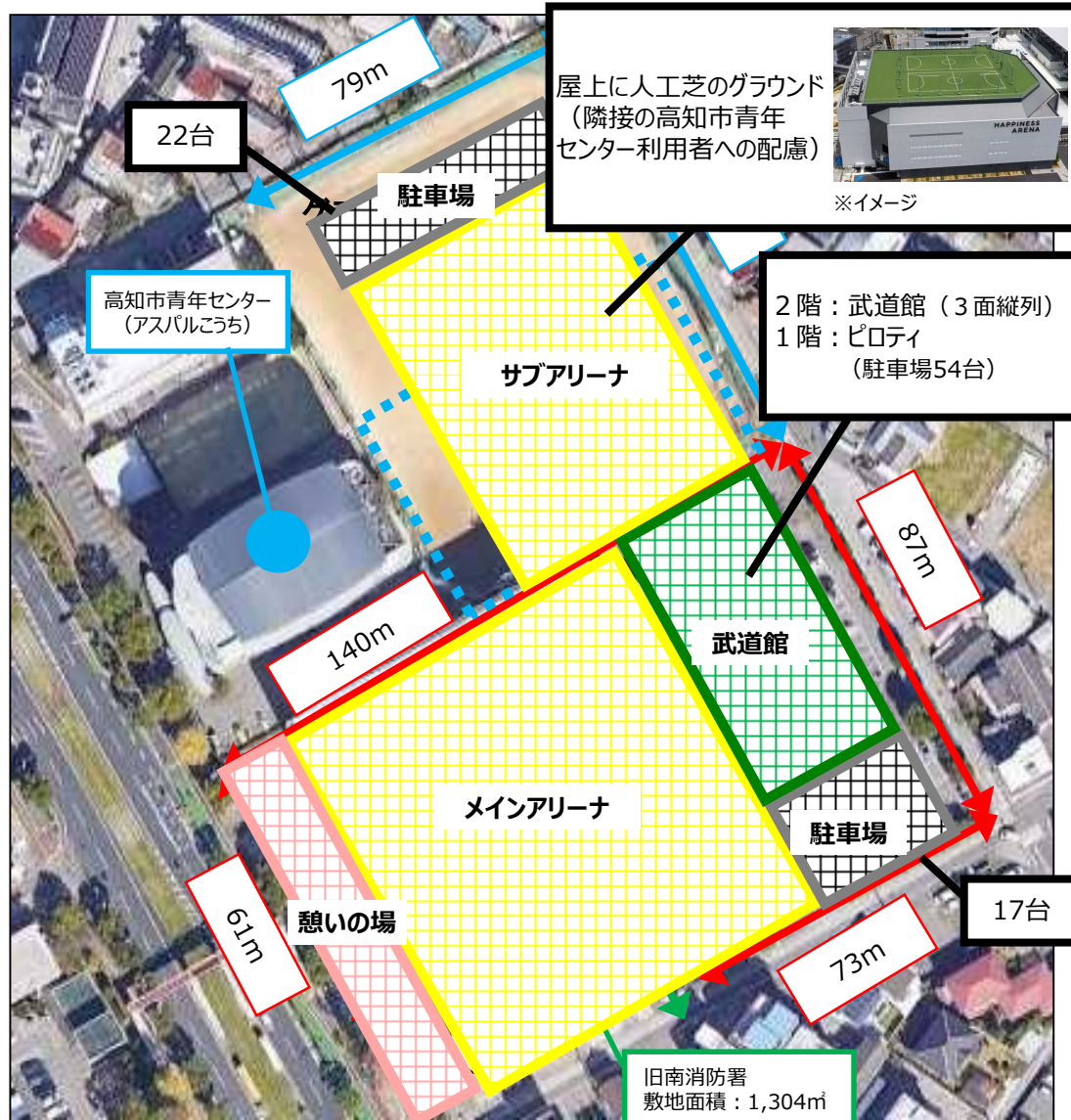
【メインアリーナ】観客席5,000席
【サブアリーナ】
バスケット**1面**
【武道館】**4面横並**
【プール】**あり**
【駐車場】82台（47台＋35台）
【憩いのスペース】正面に配置

ポイント

- サブアリーナはバスケット1面のみで観客席は確保できず、**競技大会はメインアリーナで開催する必要**
⇒これまでの県民体育館の使用と同様となる可能性が高い
- 駐車場の数は現況（82台）と**同程度を確保**

案③ メインアリーナ+サブアリーナ（バスケ2面）+ 武道館（3面横並）

■県民体育館



敷地面積

現有地（10,714㎡）＋
旧南消防署跡地（1,304㎡）＋
アスパルグラウンド（**ほぼ全面**）（6,265㎡）
合計 18,283㎡

施設の概要

【メインアリーナ】観客席5,000席
【サブアリーナ】
バスケコート**2面**＋観客席1,000席
※屋上に人工芝のグラウンド
【武道館】**3面縦列**
【プール】なし（**プールは別途検討**）
【駐車場】93台（17台＋54台＋22台）
【憩いのスペース】正面に配置

ポイント

- サブアリーナはバスケコートが2面とれ、四国大会規模までの競技大会が開催
⇒メインアリーナでの興行などが多く開催可能
- 武道館は3面縦列の配置
- 隣接のアスパルこうち利用者への教育的配慮（屋上の人工芝）
※高知市（教育委員会）と要調整
- 災害発生時の緊急一時避難スペースが広い
- 駐車場の数は現況（82台）よりもやや多くなる
- 財政負担が大きい

案④ メインアリーナ+サブアリーナ（バスケット1面）+武道館（4面横並）

■県民体育館



敷地面積
 現有地 (10,714㎡) +
 旧南消防署跡地 (1,304㎡)
 合計 12,018㎡

施設の概要
 【メインアリーナ】 観客席5,000席
 【サブアリーナ】
 バスケット 1面
 【武道館】 4面横並
 【プール】 なし (プールは別途検討)
 【駐車場】 47台
 【憩いのスペース】 正面に配置

ポイント
 ●サブアリーナはバスケット1面のみの観客席は確保できず、**競技大会はメインアリーナで開催する必要**
 ⇒これまでの県民体育館の使用と同様となる可能性が高い
 ●駐車場の数は現況 (82台) よりも大幅に**少なくなる**

県民体育館及び周辺施設の現況

〈参考資料〉

■県民体育館

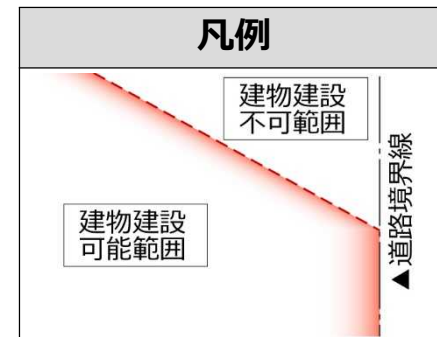
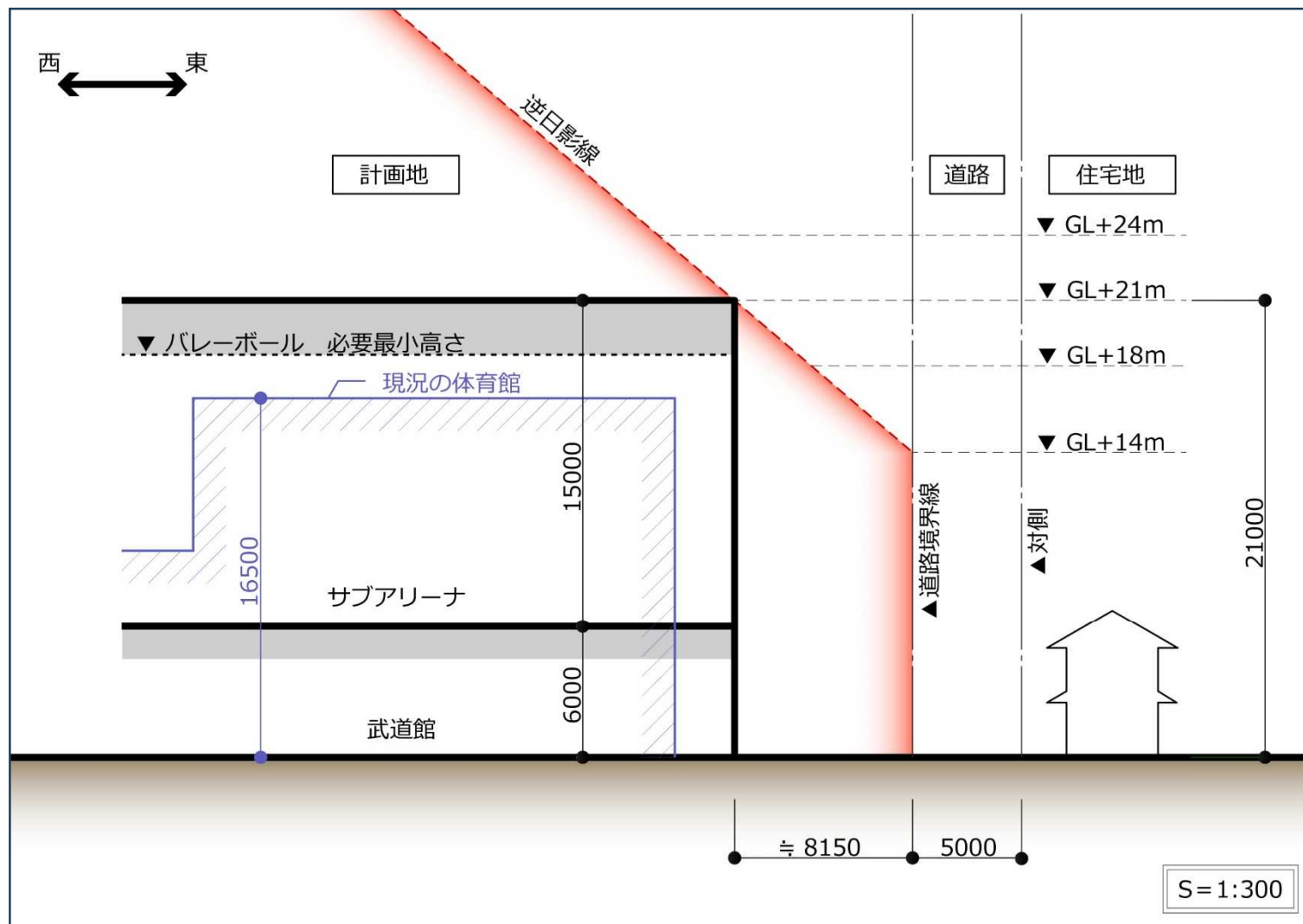


敷地面積	現有地 (10,714㎡)
	Ⓐ 体育館 Ⓑ プール Ⓒ 駐車場
	旧南消防署跡地 (1,304㎡) Ⓓ
	アスパルグラウンド (半面程度：3,132㎡) Ⓔ
合計 15,150㎡	

施設の概要	【主競技場】 観客席1,572席 (固定) バスケ2面、バレー3面、バドミントン10面、 卓球36面 など
	【補助競技場】 バスケ1面、バレー1面、バドミントン3面、 卓球16面
	【プール】 25m×8コース
	【駐車場】 82台
	【憩いのスペース】 なし

日影規制を満たす建設可能範囲（高さ）について

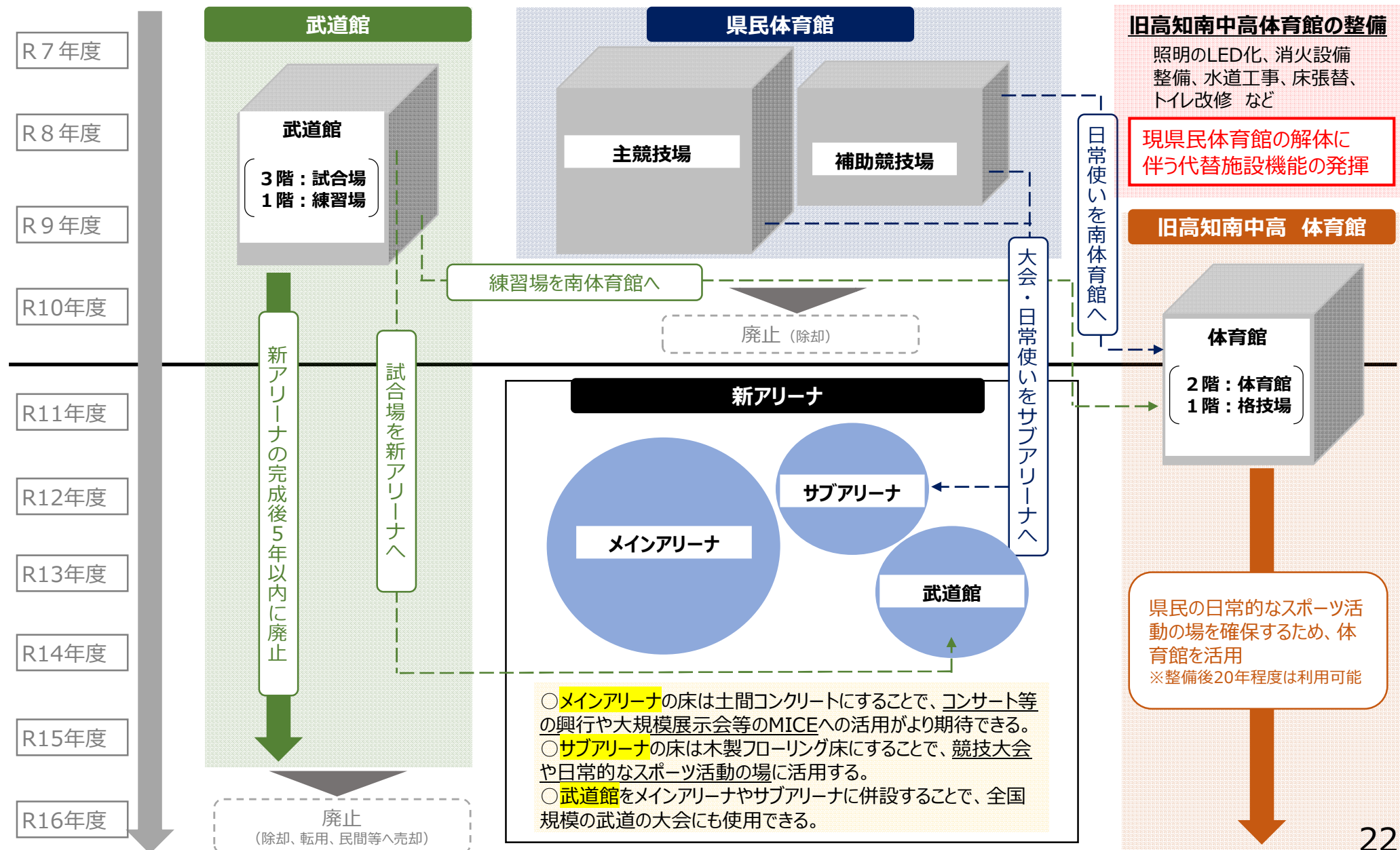
〈参考資料〉



「逆日影線」よりも左下部分であれば、日影規制を満たす。

計画案のうち、**武道館の上にサブアリーナを設置する場合**、建物高さは**21m**相当は必要と考えられ、東側の道路境界線から**約8.5m**ほど離れた位置が、計画建物を最も東寄りになれる位置となる。

新しい県民体育館の整備に伴う集約化・機能移転のイメージ

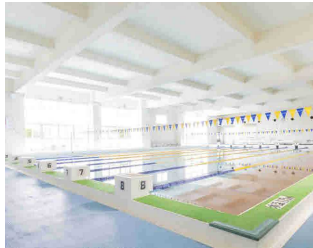


県民体育館プールの再整備の考え方

施設概況

(1) 施設概要

- 設置年：S48
- 規模：25m×8コース
- 延床面積：1,174㎡



(2) 利用状況

利用 者数 (人)	区分	R3	R4	R5	R6
	年間	49,878	59,919	43,161	57,933
	月平均	4,156	4,993	3,596	4,828
	日平均	194	207	191	201

※日平均は、年間利用者数を年間稼働日数で割った数値

■県民体育館プールの主な利用者の属性

- ・健康志向の中高年、スイミングサークル
クラブチーム、学校部活動 等
- ・利用者の大半は高知市民で、主な目的は健康
づくり、泳力の向上など

周辺プール

NO.	施設名	公・民	規模	設置年	築年数	所在地
1	春野総合運動場	公	内8・外9	H元	36年	春野町
2	障害者スポーツセンター	公	外5	S56	44年	春野町
3	高知市総合運動場	公	内8	H3	34年	大原町
4	高知市東部総合運動場	公	内9(25m) 内10(50m)	H13	24年	五台山
5	高知市ヨネッツこうち	公	内5	H14	23年	長浜
6	民間プールA	民	内7	S55	45年	中万々
7	民間プールB	民	内6	H15	22年	朝倉
8	民間プールC	民	内6	H12	25年	秦
9	民間プールD	民	内6	H5	32年	九反田
10	民間プールE	民	内6	R3	4年	新田町
11	民間プールF	民	内5	H30	7年	北本町
12	民間プールG	民	内9	H8	29年	北端町

整備の基本的な考え方

- 高知市内には、他の公立プールや民間プールが多数存在
- 県民体育館プールを再整備する場合は、市民（県民）の日常使いだけでなく、県立プールとして整備する意義を踏まえた多機能・多目的なプールを整備する必要

⇒ 例：子どもから高齢者、障害者まで誰もが使いやすいインクルーシブなプール

- ・県立障害者スポーツセンターのプール機能の集約化
- ・県立高等学校や市立小中学校のプール機能の集約化

今後の動き

- ・立地候補地の検討
- ・学校プール機能の集約化の検討

⇒県教委や市教委との協議

- ・プールの規模、機能の検討
- ・概算事業費の算定
(建設コスト、運営コスト)

イベント興行利用と県民利用の比率

- ・ 開業当初は県民利用を主な利用としつつ、イベント興行利用の誘致活用をしていくことで、将来的に興行利用が主な利用として増やしていく方向性が考えられることから、パターン①から③の開催日数を設定し、比較検討が可能

パターン			①県民利用メイン	②興行利用メイン（保守タイプ）	③興行利用メイン（積極タイプ）
概要 (利用日数の考え方)			現状、5,000人規模のイベント興行の開催実績がないことから、県民利用を中心とした利用日数を計上した考え方	近い将来、一部のイベント興行利用が開催され始めた場合の利用日数を計上した考え方	多様なイベント興行利用で土日祝の利用日を満たした場合の利用日数を計上した考え方
イベント 興行利用	プロスポーツ 利用	本番日	ニーズ調査において、これまで誘致できなかった県外クラブの地方開催利用（Bリーグ2試合、Dリーグ1試合想定）	B. Nextクラブによるホームアリーナ及び利用	B. Premierクラブ及びSVリーグによるホームアリーナ開催及びDリーグの地方開催（1試合想定）
		準備日	本番日の前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上
	ライブエンタメ 利用	本番日	全国2,500～5,000人規模におけるアリーナ・体育館におけるライブエンタメ実績値の中央値（2日）	全国2,500～5,000人規模におけるアリーナ・体育館におけるライブエンタメ実績値の平均値（4日）	全国2,500～5,000人規模におけるアリーナ・体育館におけるライブエンタメ実績値の最大利用施設の1/2値（9日）
		準備日	本番日の前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上
	その他、MICE 利用	本番日	R4～R6年度における現県民体育館のMICE※1に相当する利用日数の平均値を計上 ※1 就職セミナーや県園芸品販売拡大推進大会等	ニーズ調査において、既存のイベント興行の拡充として利用が見込まれる利用日数を計上	ニーズ調査において、これまで誘致できなかったイベント興行及び誘致が期待できる利用日数を計上
		準備日	本番日の+前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上
県民利用	スポーツ利用	本番日	R4～R6年度における現県民体育館利用日数の平均値（124日）	R4～R6年度における現県民体育館利用日数のうち、主競技場と補助競技場を利用している団体利用日数の平均値	土日祝のイベント興行利用を計上したうえで、余った日数を計上
	スポーツ以外利用 (文化系利用)	本番日	R4～R6年度における現県民体育館利用日数の平均値（23日※2） ※2 MICEに相当する利用日数の平均値を差引く	R4～R6年度における現県民体育館利用日数のうち、毎年開催されているものの平均値	土日祝のイベント興行利用を計上したうえで、余った日数を計上
土日祝における比率設定 (イベント興行利用：県民利用)			2 : 8	4 : 6	9 : 1

整備の方向性

床：木製フローリング

床：土間コンクリート

床：土間コンクリート

第2回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事

議 事

- (1) ニーズ調査結果【報告】
- (2) 施設全体構成案
- (3) 概算事業費【参考】**
- (4) 整備の基本的な考え方
- (5) 防災機能のあり方
- (6) コスト削減対策
- (7) 収益化の見通しと対応

概算事業費（建設費）【参考】

- 概算事業費については、近年の建設費や人件費の高騰に留意しつつ、先行事例の公表資料や計上すべき費目の設定に加えて、社会情勢を踏まえるために民間事業者に対するヒアリング調査、物価高騰の反映と予測値の検討を加味して、**m²当たりの建設単価**を設定
- 設定したm²当たりの建設単価に対して、利用用途の方向性や施設規模を踏まえて概算事業費を算定

先行事例の収集

- 近年整備された類似施設で事業費が公表されている先行事例を抽出し、当時の事業費から現在の物価指数を乗じて延床面積（m²）当たりの単価を試算します。

施設名（例示）
有明アリーナ
沖縄アリーナ
SAGAアリーナ
オープンハウスアリーナ太田
あなづきアリーナ香川
カクレログループスーパーアリーナ
IGアリーナ

専門的知見の反映

- 専門的知見から概算事業費として計上すべき費用の洗い出しを行い、費目及び単価設定について精査します。

建設業界の市場性確認

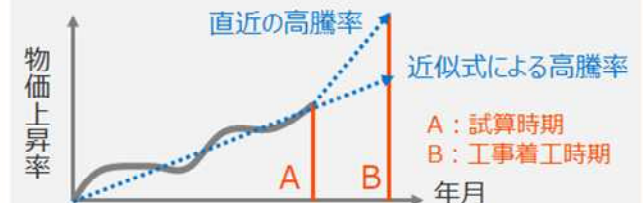
- PFI導入可能性調査における民間企業意向調査でヒアリングに応じた民間企業に対し、m²当たりの単価について意見集約し、感度分析します。

費目	計上すべき費用	市場性の確認先
整備費	調査・設計費	設計事務所
	建設工事費	建設企業
	施工監理費	設計事務所・建設企業
運営・維持管理費	人件費	運営・維持管理企業
	光熱水費、設備保守点検修繕費（日常的な修繕）	運営・維持管理企業
	その他経費	運営・維持管理企業
保険料	施設の火災保険	公表情報を基に整理
積立金	大規模修繕工事の積立金	高知県の公共施設実績

物価高騰予測（参考値）

- これまでの物価変動に対する統計データを公開している一般財団法人建設物価調査会の建設費指数[®]をグラフ化します。
- 作成した建設費指数[®]のグラフをもとに、直近の高騰率を求める方法や近似式による高騰率を求める方法等、物価高騰について、複数のシナリオを設定し、それぞれ概算事業費試算に反映します。

物価高騰の予測値を求めるイメージ



第2回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事

議 事

- (1) ニーズ調査結果【報告】
- (2) 施設全体構成案
- (3) 概算事業費【参考】
- (4) 整備の基本的な考え方**
- (5) 防災機能のあり方
- (6) コスト削減対策
- (7) 収益化の見通しと対応

整備の基本的な考え方

基本理念

誰もがスポーツの楽しさや感動を得られ、プロスポーツやエンタメ、文化などを通じたまちづくり・地域活性化の拠点となる施設整備を行います。

基本方針

(1) スポーツ振興の拠点

県民の誰もが気軽に楽しめるスポーツ施設として多世代の交流を促すほか、若い世代のアスリートの育成や県民のニーズに合ったスポーツを「する」ことができる施設を目指します。

(2) にぎわいの拠点

プロスポーツのハイレベルな試合を観戦することにより憧れや感動を抱かせ、スポーツを「みる」という文化を定着させます。

また、コンサートや展示会などの様々な催しが開催されることで、県外から多くの方が本県を訪れ、飲食や宿泊、観光産業が潤い、地域活性化につながっていくことを目指します。

(3) 安心・安全な拠点

県民の誰もが使いやすく安全・安心な施設となるように、ユニバーサルデザインを取り入れた施設とします。

また、災害等が発生した場合において、施設利用者の一時避難が可能な施設とします。

(4) シビックプライドの拠点

県民やこの施設を訪れた県外の方が親しみ、愛着を持ち、まちづくりや地域コミュニティの形成につながる施設を目指します。

※シビックプライドは（地域住民による）地元愛や郷土愛という意味に加えて、地域住民ではない人びとが抱く地域への愛着や誇りという意味

整備方針

(1) メインアリーナとサブアリーナを備え、「スポーツ」×「エンタメ」を実現し、多目的に活用できる施設として整備

【メインアリーナ】 床仕様は土間コンクリートとし、競技大会の際は木製フローリングパネルを設置

【サブアリーナ】 床仕様は木製フローリング床

(2) プロスポーツのレギュレーションやコンサート等の興行に適した規模・機能の整備

(3) 若者や子どもが集い、楽しみ、交流できる憩いの空間や現状以上の駐車場の整備

(4) 県立武道館の老朽化に伴い、武道館を移転・集約化し、新たな機能を備えた施設として整備

(5) 収益性の向上を図り「稼げる」施設となるよう、諸室の効率的な運用や飲食スペースの設置などが可能な整備

(6) ユニバーサルデザインに対応した整備

(7) 災害時の避難機能を備えた整備

(8) 県の財政状況も踏まえ、コスト圧縮や国の有利な起債なども積極的に活用



出所 | オープンハウスアリーナ太田（太田市総合体育館）／
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000026.000083048.html>

第2回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事

議 事

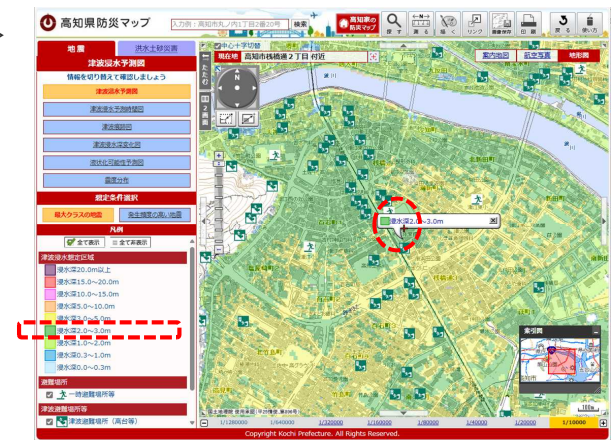
- (1) ニーズ調査結果【報告】
- (2) 施設全体構成案
- (3) 概算事業費【参考】
- (4) 整備の基本的な考え方
- (5) 防災機能のあり方**
- (6) コスト削減対策
- (7) 収益化の見通しと対応

防災機能のあり方

現状・課題

- ・ 津波浸水エリアに立地しており、南海トラフ地震（L2）クラスの発生で、2～3mの津波浸水、津波到達時間40～60分が予想される
- ・ 現在の県民体育館は、「指定一般避難所」に指定されているが、「指定緊急避難場所」には指定されていない
- ・ 10月に震度分布や津波の新想定が公表される見込み

＜津波浸水予測図＞



対策の方向性

令和6年度の「県立スポーツ施設のあり方検討会」における結論
「災害発生時において、施設利用者の一次避難が可能な施設として整備」
「災害時の避難を想定した整備をすることが望ましい」



津波避難場所



津波避難ビル

整備方針（案）

- ・ 「指定緊急避難場所」への指定を見据えた規模・構造
サイン標識や避難誘導灯の整備
- ・ 避難所運営がしやすい動線、諸室、設備
- ・ 必要な量の備蓄が可能なスペースの確保 など

高知市（防災部署）と連携し、
新しい県民体育館に求められる
防災機能を整理

第2回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事

議 事

- (1) ニーズ調査結果【報告】
- (2) 施設全体構成案
- (3) 概算事業費【参考】
- (4) 整備の基本的な考え方
- (5) 防災機能のあり方
- (6) コスト削減対策**
- (7) 収益化の見通しと対応

コスト削減対策

- ・ 本県の厳しい財政状況を踏まえ、整備においては、様々な工夫を行うことでコストの縮減を図る必要。
- ・ 想定されるコスト削減対策としては、近年多くの事例で導入されている**マルチ利用に対応した諸室機能**により、施設全体の延床面積を削減する対策が採用されている。
- ・ 新しい県民体育館においても、ニーズ調査を踏まえ、多様な利用ニーズに対応しつつ、**延床面積の合理化**を図ることが出来る**マルチスペースの導入**などにより、コスト縮減を目指す。

事例①

諸室を3つまで分割することができ、利用規模に応じて諸室規模を設定することができる。



出所 | カクヒログループスーパーアリーナ
(青森市総合体育館) / 公式ホームページ

事例②

可動式の競技床を設置することで、武道利用以外の利用にも対応することができる。



出所 | ひがしんアリーナ
(墨田区総合体育館) / 公式ホームページ

事例③

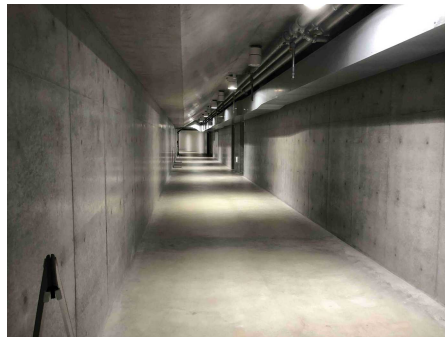
稼働間仕切り壁を設置することで、利用用途に応じて諸室にすることができる。



出所 | 北里アリーナ富士 (富士市総合体育館)

事例④

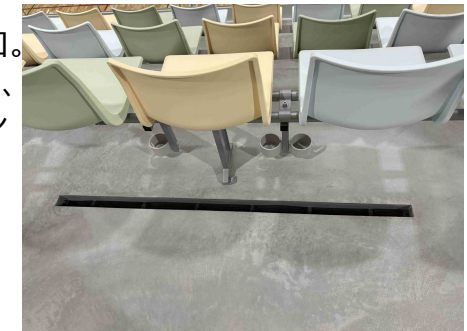
バックヤードは、土足で出入り可能で、仕上げをコンクリート打ちっぱなしのシンプルなデザインにする。



出所 | あなぶきアリーナ香川

事例⑤

観客席の後ろの空調の吹き出し口。アリーナ全体を冷やす発想ではなく、フロアと観客席をそれぞれピンポイントに冷やす発想の空調設備。



出所 | あなぶきアリーナ香川

第2回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事

議 事

- (1) ニーズ調査結果【報告】
- (2) 施設全体構成案
- (3) 概算事業費【参考】
- (4) 整備の基本的な考え方
- (5) 防災機能のあり方
- (6) コスト削減対策
- (7) 収益化の見通しと対応**

収益化の見通しと対応

- ・ アリーナ事業における収益化の項目は、主に**貸館収入**と**貸館以外収入**に分けることができる。
- ・ 貸館以外収入を確保していくためには、年間を通じて一定のイベント興行が開催されること（例：ホームアリーナとするプロスポーツクラブによる試合興行）が収益化のポイント。
- ・ 将来的に貸館以外収入を確保していくために、**イベント興行等の誘致活動や地元企業や飲食店等との連携等**による対応を運營業務に盛り込む等の検討が必要となります。

収益化の項目			内容	留意事項
貸館収入	施設利用料	アリーナ、諸室	アリーナや諸室を使用する場合の使用料。一般的に土日祝と平日及び撤去日と興行日で料金は異なる。	一般的にチケット販売する興行利用の施設利用料を最も高い料金設定を行う。
		VIP・ラウンジ空間	VIP室やラウンジ空間を使用する場合の使用料。主催者側でチケットとセット販売する場合もある。	プロスポーツの施設要件で導入を行う諸室である。
	備品貸出料	音響・映像関連	イベント興行を実施する際、備付の音響・映像設備を使用する場合の使用料。	一般的には音楽コンサートは持ち込みが多い。
貸館以外収入	ネーミングライツ	命名権	施設の命名権の権利を付与するもの。近年は命名権に加えて、マーケティング連携する事例がある。	施設の露出機会が多い場合に導入が考えられる。
	広告看板	掲出料	施設に広告看板を掲出する場合の使用料。近年ではデジタルサイネージの導入も多い。	同上
	スポンサーシップ	スポンサー契約	ホスピタリティサービスやスポーツ観戦のBOX席等の年間契約を行う収入。	ホームアリーナとするプロスポーツクラブがある場合に成立する。
	物販飲食	一時出店者の占有料 又はマージン	興行時のみ出店する出店者に占有料又は売上マージンを徴収する収入。	出店スペースの確保や地元飲食店等との連携が必要となる。
	テナント	賃料	物販飲食店等、常設で施設内に入居する場合の賃料。	常に賑わいのある施設にしなければ、売上の見通しが難しく、出店リスクが非常に高い。
	駐車場	駐車代	駐車場を有料化する場合（イベント興行時のみ）の収入。	主催者との連携が必要になる。

施設概要

「アスパルこうち」は、高知市青年センターと教育研究所を併設した複合施設で平成17年11月に建設された。「アス」は「明日(未来)」を、「パル」は英語の「Pal(仲間)」を意味し、明日に希望を持って生きていく青少年が育つことへの願いが込められている。

各構成機関

【青年センター】

- ・昭和46年3月「高知市青年センター条例」が制定、同年7月1日に高知市青年センターとして開所されて以来、50年以上にわたって青少年の健全育成を担う社会教育施設である。現在の施設は、平成18年3月に教育研究所との複合施設としてリニューアルオープンした。潮江地区の指定避難所となっている。
- ・主に12歳から30歳までの中高生・大学生・社会人などの青少年を対象に、スポーツ・文化活動・研修・自主サークルなど青年たちの活動拠点として利用。また「青年センター祭」や「はたちのひろば」への参画や地域奉仕活動など、他の青年団体や地域住民との交流や体験活動を行っている。
- ・青年センターでの活動を通して、自らの力で未来を切り開き、社会的に自立することにつながるとともに、郷土を愛する心を育むことに貢献している。

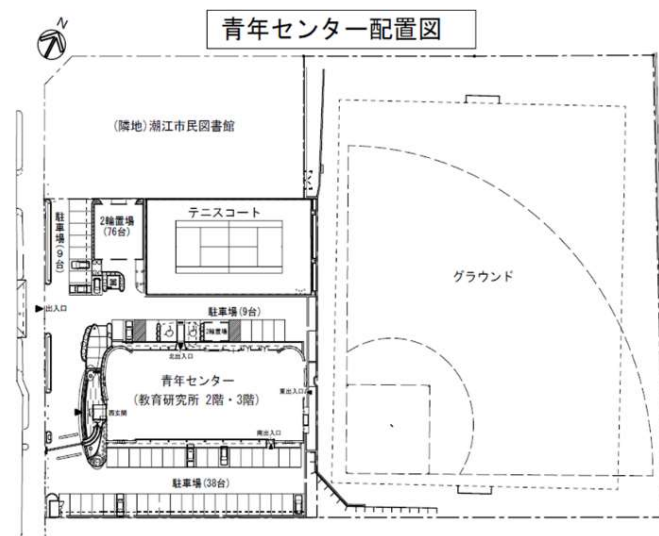
【教育研究所】

- ・昭和29年に教育委員会の組織の一つとして設置されて以来、教育に関する調査研究や教職員の研修等、本市の教育の振興・充実・発展に貢献している。
- ・子どもたちが夢・希望・志をもってこれからの社会を生き抜くことができるよう、特別支援教育班、教育相談班、教育支援センター、教職員研修班の4つの組織がそれぞれ特色を生かしつつ、学校と関係各機関等と連携を深めながら取り組んでいる。
- ・平成18年には、アスパルこうち3階教育研究所内に、不登校など教育全般の相談や、個別状況に応じた支援を行う「教育支援センターみらい」を開設した。
- ・令和8年4月には、市立中学校の分教室として不登校児童の受け入れを想定した「学びの多様化学校」を開設する予定。

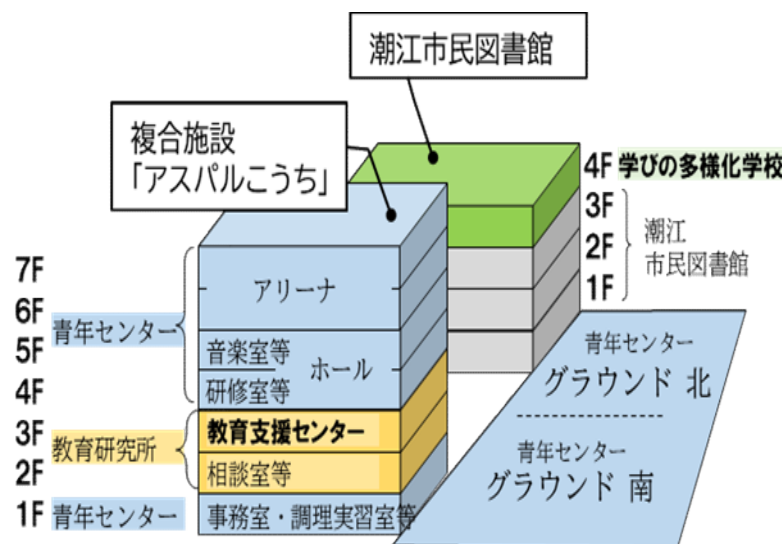
施設外観



配置図



建物階層図



青年センター利用時間

月～土曜日/AM9:00～PM10:00

- 青年登録団体/AM9:00～PM10:00
- 在学青少年団体/AM9:00～PM7:00
- 一般/AM9:00～PM5:00

日曜日及び振替休日/ AM9:00～PM5:00

休所日

- 国民の祝日に関する法律に定める祝日及び国民の休日
- 年末年始(12月29日～1月3日)・毎月20日

利用区分

高知市に在住・在勤・在学で

- 青少年:12歳(中学校)以上18歳(高校生以下)
- 青年:18歳(青少年を除く)以上から30歳以下
- 一般:31歳以上もしくは、上記の条件に当てはまらない 30歳以下の方



利用者(R6年度実績)

利用区分	市民利用			行政利用			合計 (人)
	青少年	青年	一般	教育研究所	高知市	指定管理	
本館	25,030	5,993	8,410	15,778	1,421	2,340	58,972
アリーナ	4,739	3,433	1,140	1,092	84	194	10,682
グラウンド	6,289	346	326	409	60	49	7,479
テニスコート	1,527	1,071	794	454	29	47	3,922

背景・趣旨

本市では、昭和47年から教育研究所での不登校の児童生徒への相談・通所支援を開始し、平成18年から現在地(青年センターとの複合施設)での支援を行っている。
また、令和8年度から学校教育法施行規則第56条の規定に基づき(第79条(中学校)において準用)、不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施することができる「学びの多様化学校(分教室型)」を潮江市民図書館4階に設置する予定である。

いずれの教育施設も不登校の児童生徒への多様な教育の機会を確保するための学びの場であるため、グラウンドについては、現状の半分程度の面積の確保が最低限必要であると考ええる。

義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律(教育機会確保法)第3条 抜粋

- ・ 全ての児童生徒が豊かな学校生活を送り、安心して教育を受けられるよう、学校における環境の確保
- ・ 不登校児童生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、個々の不登校の児童生徒の状況に応じた必要な支援
- ・ 不登校児童生徒が安心して教育を十分に受けられるよう、学校における環境の整備

位置図

高知市立潮江市民図書館施設内
学びの多様化学校(分教室)を
R8年設置予定



青年センター(アスパルこうち)・教育研究所の複合施設
施設内には、教育研究所の教育支援センター(不登校児童生徒を受け入れるために教育委員会が設置する公的施設)を設置している。

グラウンド利用状況

【教育支援センター】

本施設の通所児童生徒数と同程度、又はそれ以下の児童生徒数の学校(市内1/3程度)と比較した際、いずれの規模の学校においても、グラウンドを有し、豊かな教育活動が行われている。本施設に通所する児童生徒にも、同様の教育機会を保障し、一人一人の健やかな心身の成長を促すためにも、グラウンドは極めて重要で欠かすことができない。

- ・ 小学部… 毎週1回 グラウンドを利用して運動や遊びをする。
- ・ 中学部… 毎週1回 アリーナ、グラウンド、テニスコートを利用してスポーツをする。
- ・ その他… 個々の主体的を大切にしたいサークル活動において、グラウンドを利用して体を動かす。

令和6年度 通所支援児童生徒数203人

《R6年度 グラウンド利用状況 延べ409人》



【学びの多様化学校】(分教室) 令和8年度4月開設

○ 教育課程

- ・ 保健体育科… 学習指導要領に基づく体育分野の領域における学習「陸上競技」、「球技」(ベースボール型)等においてグラウンドを活用する予定。
※ **100～200m走路やベースボールコート1面** 等
- ・ 学校行事 … 健康安全・体育的行事(体育祭) 等

	時間	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
小 中	9:30 ↓ 9:20	ゆっくりタイム(心と体のウォーミングアップ) おはスタ 朝の会				
	10:45 ↓ 11:30	あそぼうよ運動(グラウンド)	クリエイティブ(ものづくり・調理等)	あそぼうよ運動(アリーナ)	ふむふむ博士さん	あそぼうよテニス
	10:00 ↓ 11:45	モノづくり	マイタイム	授業型学習	スポーツ	授業型学習
	11:45	帰りの会				
小 中 午後	12:00 ↓ 12:40	昼 食				
	12:40 ↓ 13:40	12:50 まで みらいタイム	12:50 まで クローバー塾中3授業型学習	12:50 まで サークル	12:30 まで	12:50 まで ゆっくりタイム
	14:00 ↓ 17:15	家庭訪問 個別支援	家庭訪問 個別支援	家庭訪問 個別支援		家庭訪問 個別支援

生徒の心身の発達を促す授業や学校行事など、生徒が主体的に活動する場として、グラウンドは重要な役割をもつ。
また、火災時の避難場所としても活用する重要な場である。

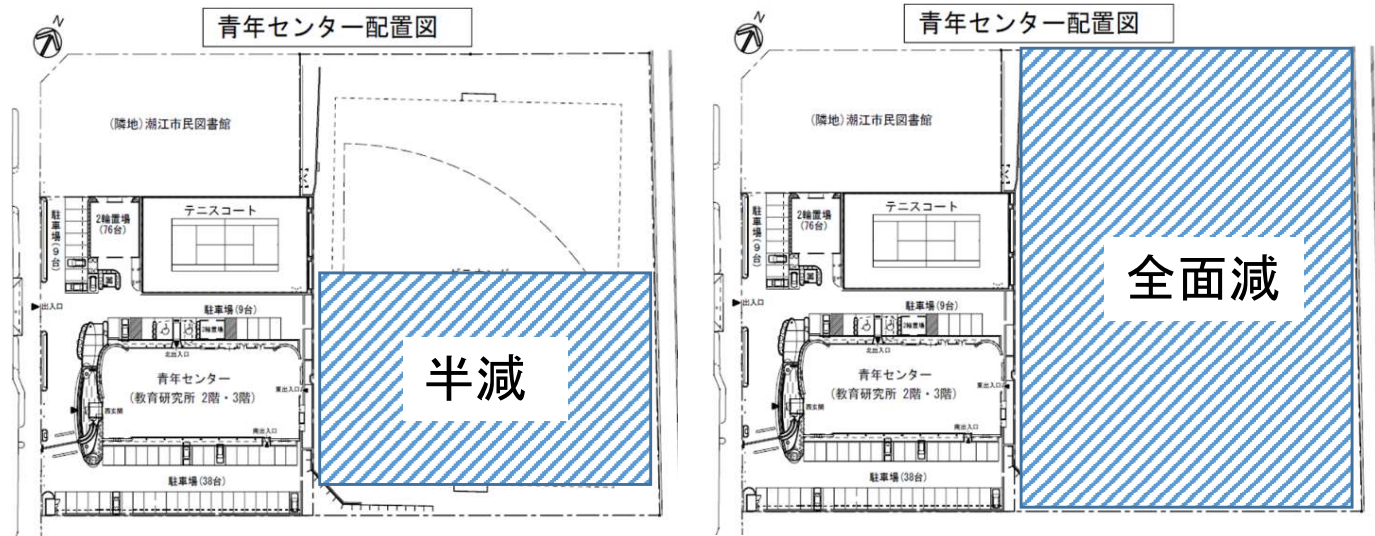
(1)グラウンド面積が減少する場合の影響

【教育支援センター】・【学びの多様化学校】

残ったグラウンド面積で可能な教育機会の確保を工夫する必要がある。

【青年センター】

サッカーやラグビーに利用しているグラウンドの利用者については、面積が減少することで、全面を必要とする試合形式では使用できなくなり、利用価値が減少する。



(2)高知市からの条件・要望事項

高知市からの条件・要望事項

- (1)教育支援センター・学びの多様化学校の活動のための屋外スペースや自然体験の機会の確保
 - ・グラウンドが減少した面積分、新県民体育館の屋上部分等に人工芝を敷設し、優先的に利用できるようにすること。
 - ・教育的配慮を必要とする子供たちが安心して活動できるよう、他団体との共用ではなく、優先的に使用できる時間帯・曜日の確保。
- (2)自然環境を生かした学びと情緒安定の場づくり
 - ・子供たちの情緒の安定や学習意欲の向上につなげられるよう、土や草木、虫などに直接ふれられる環境を残していただきたい。
 - ・建物周囲に緑を植えるなど、安らぎを感じられる空間づくりを行っていただきたい。
- (3)新県民体育館の再整備に伴い支障となるアスファルトグラウンド照明柱やフェンスの整備(移設や新設)。
- (4)青年センターグラウンド利用者の代替場所の確保。
- (5)運営ルールの柔軟な見直しと継続的協議の仕組み
 - ・運用開始後も、教育委員会と施設管理者が定期的に協議し、利用実態に応じて柔軟なルール変更や改善を行える体制を整えていただきたい。